

2024年3月1日

中東関係者各位

九門康之

「中東なう」3月

中東情報短信の「中東なう」です。

パレスチナ国家承認をめぐる欧米とイスラエルの綱引きが続いています。ネタニヤフ首相はラファ攻撃目処をラマダーンが始まる前(今年のラマダーン月初日は3月11日前後)とした。一方で、米国はカタールやエジプトと協力し停戦交渉を進めているが、本日(1日)現在先行きは不透明である。

1. アラブ首長国連邦 (UAE)

中東最大のヒンズー教寺院を建設、モディ首相を招いて落成式を開催した。UAEはアジアと欧州の中継点になるべくインドとの関係を重視している。インドとは貿易拡大を推進、インド系の投資家を誘致している。欧州へはサウジアラビアを通過することになるが、ドバイの高級ホテル経営ジュメイラ・グループがサウジアラビアに初進出するなど、ルート開拓への動きがみられる。

2. トルコとエジプト

エルドアン大統領が2011年の「アラブの春」以降初めてエジプトを訪問、エル・シシ大統領と会談した。2011年以前はトルコ企業のエジプト進出が進み、両国の経済関係は良好だった。しかし、「アラブの春」でムスリム同胞団がムバラク政権を転覆させ、さらにエル・シシ大統領がクーデターでムスリム同胞団系のムルシー政権を再度転覆させると、エジプトとトルコの関係は一気に悪化した。エジプトのエル・シシ政権が軍を背景とする世俗政権である一方で、トルコのエルドアン政権はイスラーム主義であったためである。エルドアン政権は「ポリティカル・イスラーム」(イスラームを政治の理念とする集団、例、エジプトのムスリム同胞団、チュニジアのナハダ党など)を支援することで、イスラームの潮流に乗ろうとした。エジプトとトルコのデオロギーは相いれなかった。加えて、エジプトはイスラエル・キプロスと協力して東地中海のガス田を開発しているが、トルコは北キプロスを承認していることにより領海認識が相違するため、同開発に参加できず焦りをみせていた。

エルドアン大統領からエジプトを訪問したことは、トルコ側が歩み寄りを見せたとの解釈ができる。歴史的にトルコとエジプトは関係が深く、政治の歯車が前向きに回り始めれば、経済面でも双方がメリットするものと思われる。

3. イエメン

紅海の船舶を攻撃するイエメンのフーシー派に業を煮やした欧米は、イエメンのフーシー軍事拠点を攻撃している。攻撃は欧米の圧倒的火力で成功しているが、イエメンは人口3000万人をこえる大国であり、フーシーの背後にはイランがいる。簡単にフーシー派を封じ込めることは難しい。ただ、フーシー派の主張である「パレスチナ（ガザ）」支援と紅海を通過する船舶の攻撃は議論がかみ合わない。また、第三者から第三者への武力行使は、パレスチナ問題に便乗した自己主張ともとられかねない。さらに、フーシー派は「ガザ戦争が終わっても船舶攻撃を続ける」としており、攻撃の目的が不明確だ。

4. その他のニュース

●米国、パレスチナへの不法入植イスラエル人に経済制裁●イラン、シリアから革命防衛隊撤退（米国の攻撃に備える）●サウジアラビア、アラムコ株を追加売却（100億ドル）●チュニジア、財政資金を自国中央銀行から借入（国債の中銀引き受け）●カタール、三井物産エネルギー部門子会社とLNG売却長期契約●サウジアラビア、ニューヨークにNEOMへの投資誘致事務所開設●サウジアラビア、ロンドン商品取引所（LME）の在庫保管拠点建設●サウジアラビア、スイスから鉄道車両購入●イラン、3月1日に議会選挙●サウジアラビア、アラムコが生産目標を引き下げ●ドバイ、フライドバイが欧州路線拡大●イラク、海外への奨学金留学生を拡大●エジプト、イラン外相とジュネーブで会談●

ご参考：情報収集手法

本レポートは、主に中東各国の電子メディアを継続してモニターして得た情報を材料にしています。マクロ経済・金融統計数値の出所は、IMF、地場中央銀行統計等です。コメントは筆者の個人的見解です。

以上